



▲整備された緑地帯は、地元子ども会により「森林通路」と命名された。沿道には市から寄贈された桜の木を植樹。毎年少しずつ増えており桜の名所も夢ではない



▲市之倉ハイランド緑地帯から見た景色

多治見市は、国土交通省多治見砂防国道事務所が進める土岐川流域グリーンベルト構想※に基づき、市民と協働で森づくり活動を行っています。これは、土砂災害を防止し、自然環境・景観を保全することを目的としています。現在、多治見市内では笠原中学校に隣接する笠原の森、市之倉町の4地区(どんぐりの森、おりべの森、やすらぎの森、筒小屋の森)、虎溪山地区、多治見中学校に隣接する三ツ池の森の7カ所をモデル地区に設定し、関係機関、地域住民と共に樹林整備活動を行っています。

※多治見市と土岐市の市街地に隣接する山麓斜面を一連の緑地帯として、保全・創出すること

グリーンベルト事業の基本方針

- 山麓斜面を防災的に強い樹林地とし、土砂災害を防止
- 土砂災害の恐れのある地域に対し、適正な土地利用に誘導
- 防災機能が高く、種の多様性に富む樹林地を保全・創出
- 生活に憩いをもたらす自然景観を保全
- 身近な自然体験(環境学習や森林レクリエーション)の場を提供



▲市之倉神明宮からさらに登った先にあるハイランドを一望できる展望台。こちらも市民ボランティアにより整備された



▲中学生を対象とした樹林整備活動の様子。生徒たちは、はげ山よりも樹木の生い茂った森林の方が土砂災害に強いことなどを学ぶとともに、実際に里山に入り森林の観察や整備を行った